

景気はピークを過ぎたのか

景気は足踏み状態が続いている。TDB 景気動向調査によると、2018年5月の景気DIは前月比0.4ポイント減の49.4と2カ月連続の悪化となった。

近年の景気動向を振り返ると、アベノミクスの始動とともに上向いた国内景気は、2014年4月の消費税率引き上げをきっかけに大きく悪化。しかし、2016年夏以降は、好調な海外経済を受けて半導体関連や機械類をはじめとした製造業を中心に再び拡大基調を続けてきた。

2018年1月には過去最高を記録した景気DIだったが、人手不足にともなう人件費の上昇や原油価格の高騰によるコスト負担の高まり、保護貿易主義に対する懸念の広がりなどを背景に足踏み状態が続いている、という状況である。

では、拡大を続けていた国内景気は、すでにピークを過ぎたのだろうか。

景気の捉え方にはさまざまな方法があるが、ここでは景気循環論に基づきながら考察してみよう。日本が採用している景気循環の考え方であるミッチェル＝バーンズ方式では、景気は（景気の谷）→回復→拡大→（山）→後退→収縮→（谷）という4つの局面で周期性を持つことが特徴となっている。

そこで、まず在庫の動きから確認する。TDB 景気動向調査の結果から、5月の在庫DIは51.4となった。ここ6カ月間は同程度で推移しており、在庫水準は緩やかに増加している様子が見えてくる。また生産・出荷量DIは50.6となり、2017年12月をピークに徐々に低下してきた。生産・出荷量は徐々に鈍化している。これらを在庫循環としてみると、景気拡大による在庫積み増しから意図せざる在庫増へと移り、景気の山を越えた可能性が示唆される。

次いで、景気DIを景気基準日付の基準（内閣府）と照らし合わせてみる。景気DIの3カ月後方移動平均の前月差をとると、直近3カ月間の累計はマイナス0.885であり、調査開始（2002年5月）以降の標準偏差は0.848である。また、5月の7カ月後方移動平均の前月差はプラスであった。これらから、現在の景気は足踏み状態ではあるものの、下方への局面変化には至っていない可能性を示す結果となった。

そのため、景気循環論の視点からみると、5月の景気動向は、景気拡大期を経て（山）に差し掛かっている可能性はあるものの、後退局面には入っていない状態。つまり、足踏み状態が続いている状態である、といえよう。

では今後の景気はどうだろうか。TDBによる景気予測DIでは、しばらくは概ね横ばい傾向で推移するとみられる。また、超先行指数として捉えられる一致・遅行比率をみると、ここに来てやや弱含みつつある。こうしたことから、今後の景気は拡大傾向が変調する可能性も出てきている。国内景気は輸出や設備投資がけん引するとみられるものの、保護貿易主義の高まりや地政学的リスクなど海外からの景気下押しリスクについて注視する必要がある。

（撞球者）

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

広島東洋カープにみる最強のマーケティング

広島東洋カープが今季も好調だ。2016年と17年に連続リーグ優勝を果たし、ファンは早くも3連覇に期待を寄せていることだろう。野球は、投手と捕手を中心としたセンターラインが重要といわれるが、二遊間を守る菊池、田中の守備力は球界での評価も高い。岡田や大瀬良など先発陣が安定的な仕事ぶりで「試合を作る」一方で、中継ぎから抑え投手への勝利の方程式も確立している。

1975年、79年、80年、84年、86年にリーグ優勝し黄金時代を築いたが、91年の優勝から16年の優勝まで四半世紀の歳月が流れた。93年に導入されたフリーエージェント（FA）制度や逆指名制度（06年まで）後は、有力選手がFAで他球団へ移籍するなど、戦力の弱体化が進み、資金力が豊富な球団がFA権を得た選手や有力外国人選手を獲得し補強を進めるなか、憂き目をみてきたといえる。

一方で球団は90年に日本球界で初となる広島東洋カープアカデミーオブベースボール（カープアカデミー）をドミニカ共和国に設立し、有望選手の発掘と育成をスタートしている。現在では、カープアカデミー出身選手のバティスタが活躍するなど、育てた若木が確実に実を結んでいる。

09年には長年ファンに愛された旧広島市民球場からマツダスタジアムへホームスタジアムを移転した。マツダスタジアム建設にあたっては、アメリカのボールパークを参考にしたといわれており、野球観戦のみならず、BBQエリアの設置など家族や友人とレジャーを楽しむ場所という仕掛けがみられ、スタンドは連日、多くのファンで埋め尽くされている。

従来から地元広島を中心に熱烈なファンは存在していたが、ここ数年は「カープ女子」と呼ばれる新たなファン層を開拓し、県外からの集客に成功している。地域や性別で従来と異なるセグメントをターゲットとして新たな客層獲得に成功したカープのマーケティング手法は、今では「オリ姫」（オリックス・バファローズ）や「虎女」（阪神タイガース）など他の球団にも波及している。

カープの今日の成功は、有望選手の発掘と育成を自前で行い、ファン集客のマーケティングに知恵を絞ることが大切であるということを見せてくれているのではないだろうか。

（ヒデ）

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

アジアの成長の行方

現役詐欺師たちと互いに騙し合う勝負をした経験がある。アジアから来た外国人が日本で起こす犯罪件数の増加を受け、アジアで今何が問題になっているのか、教育や経済の問題がどのような影響を与えているのかを調査するため、中国返還目前の混とんとした香港で取材をした。長く勤めたマスコミ時代のできごとだ。

私はその日、早朝から目抜き通りにある公園で観光マップを広げ、接触を待っていた。女がひとり、すぐに声をかけてきた。穏やかな雰囲気 of 20 代の中国人。彼女は自分の赤ちゃんだという写真を見せ、家族の話をし、朝食を一緒にどうかと誘ってきた。

私たちは、公園前の人気の食堂に入った。10 分もしないうちに、先の女の友人を名乗るフィリピン人が突然現れ、勝負は本格的に動き出した。二人は交互に仲間に電話しはじめた。

一方で、私は相手の出方を見ながら誘導を試みていた。二人の仲間と接触するのが狙いであり、アジトに潜入するのが目的だった。そのうち、私はバスを乗り継いだ先にある、遠い町に連れていかれた。

細い路地に入った、古いビルの中にそのアジトはあった。各部屋にはドアがなく、何の目的で居るのか分からない人たちが、何をするでもなく、たくさん居るという不思議な空間だった。私は、案内されたラオス人の男の部屋で、国籍もさまざまな詐欺師 10 人と接触することができた。

ポーカーをしながら、彼らの話を聞く。アジアの貧しい土地の出で、家庭環境にも恵まれず、貧困から抜けだすすべがないまま苦勞してきた人間の集まりなのだと感じた。この人たちが貧困や教育の不足をどこかで断ち切ることができたら、アジアはどのように変わるのだろうか、と思わずにいらなかった。

彼らと数日行動をとともにした結果、私は多くのことを経験したが、自身の駆け引きは一步及ばずだった。慣れたところに居室で出された飲食物に睡眠薬が混入されていたのだ。気が付くと、真っ暗になったマンションに私ひとりきりだった。隠し持っていた証拠データは抜き取られ、記録機材は無くなってしまっていた。

いま、仕事はがらりと変えてしまったが、日本企業や世界情勢が、アジアとどうかかわっていくのかを追う機会に恵まれている。日々、投資や合併という文言と一緒に飛び込んでくるニュースの中身を見ていくと、最終的に勝つのは誰だ、というあの日感じた緊張が蘇ってくるような気がする。

今後のアジアの姿は、テクノロジーの発展と掛け合わされることで、今わたしたちができる想像をずっと超えたところに変容していくのではないかと思う。ぜひ、自分の目で、各国の戦略と勝負の行方、その結果もたらされる人々の暮らしを見ていきたい。世に伝えていきたいと今は感じている。

(金田)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

飲食店の無断キャンセル問題を考える

4～5月は歓迎会シーズン。多くの職場で新しい仲間との懇親会が開かれたことだろう。私の職場も例外ではなく、所属部署関係のものが2回、任意のメンバーで開催したものが1回と、計3回の歓迎会に参加した。今年はそのすべてで幹事、あるいはそれに近い役回りであったため、ここ数週間は何かとやるが多かった。

歓迎会準備の第1歩は会場予約である。3回のうち1回は参加人数が100名前後の大所帯で、それなりの規模の店を探さなければならなかったが、なんとか押さえることができた。その後、店とのやり取りで費用の支払いの話になったのだが、100名分の予約にもかかわらず、内金はたったの1万円。残りは当日支払いとなった。私はてっきり総額の3分の1ほどを内金として収めるものと思っていたため、あまりの少なさに拍子抜けしてしまった。

私はこの説明を受けた後、「もし仮に自分たちが無断でキャンセルをしたら、この店はどうなるのか」とふと思った。もちろん、当日は美味しい料理とドリンクを参加者みなで楽しみ、最後に予定通りの費用をお支払いした。しかし、内金1万円が総額と比べてあまりにも少額で、直前・無断キャンセルが発生した際のリスクヘッジとしては不十分に感じた。一応、「当日キャンセルした場合のキャンセル料は100%」との説明もあったが、店側に提示したこちらの情報は自分の名前と携帯電話番号のみ。キャンセル後に連絡がつかなくなったら、キャンセル料の請求は難しくなるだろう。

2018年3月、東京簡易裁判所は、飲食店の予約を無断でキャンセルした客に対し、店側への損害賠償を命じる判決を下した。この客は2017年4月、東京都内の飲食店で40名分、総額約14万円のコース料理を予約したものの、当日は予約時間になっても店に現れず、その後連絡もつかなくなったという。クレジットカード業を手がける三井住友トラストクラブは、直前・無断キャンセルで生じる飲食業界全体の推定損失額について、少なくとも年間約750億円と試算する。予定していた売上を計上できないばかりか、食材等の仕入れ代金は持ち出しになるなど、直前・無断キャンセルは飲食店にとって大きな損害だ。

予約した飲食店をキャンセルしなければならない時は、なるべく早期に店側に伝えるのはあたり前の動きではないだろうか。にもかかわらず、昨今はキャンセルをしないで、放置してしまうケースについて書かれた記事をよく目にするようになった。そうすると飲食店側にも適正な内金を設定する、あるいはキャンセル規定について書面やメールなど残る形で通知し、かつ確実に連絡が取れるようにしておくなど、キャンセルリスクへの備えが必要となるのかもしれない。

飲食店の予約がスマートフォンのアプリで気軽にできるようになった今、これまで以上に見えにくくなったインターネットの先の相手に対する配慮を再認識する必要があるのかもしれない。

(サンデードライバー)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

変わる日本の対外収益

日本が海外から稼ぐ方法が大きく変化している。2017年の経常収支は21兆9,514億円の黒字となっている（財務省・日本銀行「国際収支統計」）。そのうち保護貿易主義の拡大などで注目される貿易収支は、東日本大震災以降、赤字が続いていたが、原油価格の低下などを受けて2016年に黒字へと転換した。

2017年の経常収支黒字額のうち、19兆8,374億円は第一次所得収支が占めた。これが第一の要因である。第一次所得収支は直接投資収益と証券投資収益が主となるが、近年は直接投資収益が拡大している。なかでも、配当金・配分済支店収益と再投資収益が直接投資の黒字を支えてきた。

また、直接投資収益を地域別にみると、アジアからの収益が5兆2,006億円と大きく拡大しており、北米の6兆4,126億円に次ぐ高さである。その他、中南米も3兆円超となっているが、その多くはタックスヘイブンとして有名なケイマン諸島が占めている。その金額は2兆4,506億円で、ASEANより大きく、EUに迫る規模である。さらに、アジアを国別にみると、中国とタイで半分を占めており、日本企業が多く進出している両国において、機械化需要などが投資を促しているとみられる。

証券投資収益では、債券利子が配当金の7.6倍にのぼり、金融投資では外国債を大量に保有する日本の姿が浮き彫りとなっている。

経常収支の黒字が拡大した第二の要因は、サービス収支の急速な赤字縮小である。内訳をみると、旅行収支が2015年に黒字化、2017年は1兆7,809億円の黒字となっている。日本からの出国者数が概ね横ばいである一方、訪日外客数が急増していることが背景にある。とりわけ、東アジアからの旅行者が多く、航空路線の拡充や大型クルーズ船寄港数の増加なども一因であろう。

サービス収支において、最大の黒字要因は知的財産権等使用料である。2017年は2兆2,905億円に達し、そのうちアジアで1兆1,267億円を占め、さらに中国は5,227億円にのぼる。つまり、中国における同使用料の黒字額は、日本の同使用料の22.8%、経常収支黒字全体の2.4%を占めているのである。知的財産権等使用料は、産業財産権等使用料と著作権等使用料に大別されるが、前者は黒字が拡大するなか、後者は赤字が続いている。著作権等使用料の赤字はソフトウェア使用権料が多額にのぼるためとみられている。米中貿易摩擦の主要議題にあげられている中国における知的財産権の保護は他人事ではなく、日本にとっても非常に重要な懸案事項である。

日本の海外取引の内容はモノの貿易取引から旅行を含むサービスや投資収益へと変化してきている。今後、日本経済が海外から稼ぐ力を高めるためには、海外進出の拡大にともなう直接投資や産業財産権等使用料を強化することに加えて、インバウンド需要を取り込んだ旅行収支の拡大を図ることがより重要となろう。

(撞球者)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。